

原発 ゼロ にむかって

2012年9月12日 No.32

<http://www.tokyominiren.gr.jp/>

編集・発行／東京民医連事務局 tel : 03-5978-2741 fax : 03-5978-2865 mail : sien@tokyominiren.gr.jp

リフレッシュ企画に福島から17家族

春に続き、夏休み期間に関東地協として福島第一原発事故と向き合いながら地域医療を守っている、福島県

民医連の職員にリフレッシュしてもらう企画として、ディズニーランドや箱根、熱海の旅行に17家族65人を招待しました。旅行は家族ごとに個別日程です。箱根旅行に行かれた、わたり病院の荒井史子さんからお礼の手紙が届きましたので、抜粋して紹介します。

今回、関東地協の皆様のお世話になり、8月4日から6日まで親子3人で箱根旅行に行かせていただきました。本当にありがとうございました。幸い天候にも恵まれ、2日目は小田急のフリーパスを使い、登山電車とロープウェイを乗り継ぎ芦ノ湖まで出かけ、景色も楽しみ、海賊船にも乗船し、箱根園水族館まで出かけて過ごしてきました。小学1年生の娘も大喜びで、夏休みの宿題の「絵日記」に楽しかった旅行の思い出を描いていました。私たちが住んでいる「渡利」地区は、福島市内でも放射線量が高いことで全国的に有名になってしまいました。少しずつではありますが除染も行われ、一般家屋の除染は段階的に進められていて、私たちの地域は来年早々に行われる予定です。昨年は保育園年長組として様々な行事が中止になり、寂しい思いをしてきました。保育園最後の運動会も小学校の体育館を借りて行われました。今年の5月に行われた小学校の運動会は、校庭で行われましたが外での活動時間が限られているため午前中のみのもとても慌ただしいものでした。しかし、学校の除染は進められ今年の夏はプールも使用することができ、水泳を楽しむことができるなど少しずつではありますが以前の生活に戻っています。10月には福島市で「ピースリレーマラソン」が開催されます。私も事務局として準備を進めています。皆さんに喜んでいただける大会にしたいと思います。ぜひ福島にもお越しください。(医療生協わたり病院 荒井史子)



精神科医療の改善目指し、息の長い支援活動はじまる

福島県相馬地方の精神科医療の改善を目指し、丹羽真一（福島県立医科大学医学部神経精神医学講座 教授）を理事長とするNPO法人「相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会」が相馬市に「相馬広域こころのケアセンターなごみ」を開設し、メンタルクリニックも併せて設け、息の長い被災地支援活動の取り組みがはじまっています。「つくる会」の会員である代々木病院の精神科中澤医師、遠藤さん、メンタルクリニックみさとの田口医師は「メンタルクリニックなごみ」を訪れ、遠藤さんは「スタッフの伏見さんの案内で小高地区を車で回りました。長年手入れしてきた田畑は雑草が腰の高さまで茂り、壊れた家は放置され、町の中はシンと静まりかえっていて信号だけが点滅していました。メンタルクリニックの新垣所長は沖縄から往復16時間かけて診療にあたってっていると聞きびっくりしました。他の日は全国からの医師でかろうじて体制をつくり、外来を支えていました。スタッフも被災した方が多い中で精神疾患の患者さんのために奮闘していました。最後に伏見さんから、東京の方々は何をしてくれているのか？と疑問をなげかけられたのが印象に残りました。」と語っています。中澤



医師は9月10日から3日間、現地の保健師とともに地域での活動を開始しました。